

5 カメムシ類による斑点米の発生防止

1 カメムシ類の発生・増殖しにくい環境づくり

- 畦畔等の雑草地は、**イネ科雑草の穂が出る前に草刈り**を実施
- 麦あとほ場等では、大豆、園芸作物、緑肥等を積極的に栽培し、雑草の繁茂を抑制



アカヒゲホソミドリカスミカメ (体長約6mm) アカスジカスミカメ (体長約6mm)

2 割削の発生軽減

- ケイ酸質資材の施用
- 適正な栽培管理により目標の穂数・粒数を確保



籾が割れると、カメムシが吸汁しやすくなる

3 適正な防除を実施

- 防除効果の高い薬剤を使用し、生育ステージに応じた適期防除の実施
- 早生品種や大型カメムシが多い地域では、**穂揃期と傾穂期の2回防除を徹底**
- 防除後もカメムシが多い場合は追加防除



山際を中心に大型のカメムシが増えています追加防除など対策の徹底を!

クモヘリカメムシ (体長約16mm)

防除時期の目安



高品質で美味しい富山米を食卓へ 「ほおぼる幸せ。富山米」

令和6年は前年に引き続き高温となりましたが、適切な管理により1等米比率は89.4%と大きく改善しました。
令和7年産は1等米比率90%以上と安定した収量を目指して、技術対策を徹底しましょう!

高温等の気象変動に打ち勝つ米づくり

- 「コシヒカリ」では、**5月15日を中心とした田植えの徹底**
- **健苗育成と適切な田植えによる初期茎数の確保**
- こまめな**水管理**、的確な**追加穂肥の施用**による稲体活力の維持
- **高温耐性品種の作付拡大**

「コシヒカリ」は、近年の猛暑で**白未熟粒**が多発するとともに、作付面積が多いと収穫作業が集中し、刈遅れによる**胴割米**が発生します。

高温耐性品種の「てんたかく」、「富富富」、「てんこもり」の作付拡大を図りましょう。

春の土づくり運動 (令和7年3月~5月)

- **土づくり資材の施用**により、ケイ酸・加里・アルカリ分等を補給する
- 堆肥や緑肥等の**有機物の施用**により、土壌の肥沃度、保水性・排水性を向上させる
- **春耕時の深耕**により作物の根域を拡大し、肥料の吸収効率を高める

高品質米の安定生産には土づくりが重要!



ブロードキャストによる土づくり資材の散布



マニアスプレッダによる堆肥の散布

作土深15cm以上を確保!

被覆肥料の被覆殻(プラスチック殻)の流出防止について

代かき後の水田では、被覆肥料の被覆殻が浮遊する場合があります。用水等に流出しないよう対策を取りましょう。

- 1 代かきは浅水で行い、作業中・作業後は落水しない
- 2 畦畔沿いに吹き寄せられた浮遊物を除去する
- 3 排水口や排水路にネットを設置する



代かき時に浮遊する被覆殻



捕集ネットの使用例

1 高温登熟回避のため5月15日を中心とした田植えの徹底

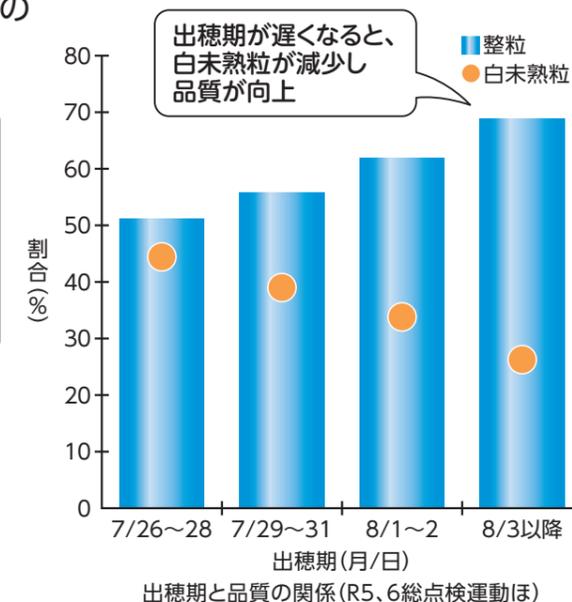
- 出穂後の高温を避けるため、「コシヒカリ」の田植えは5月15日を中心を実施

田植日と出穂期及び登熟期間の気温

田植日 (月/日)	出穂期 (月/日)	出穂後20日間の平均気温(°C)
5/5	7/28	28.4
5/10	7/31	28.1
5/15	8/3	28.0
5/20	8/7	27.7

※出穂期および気温は近年値(H27~R6)を用いた

近年の田植盛期は5/11頃とやや早め**5/15中心の田植えで高温登熟の回避を!!**

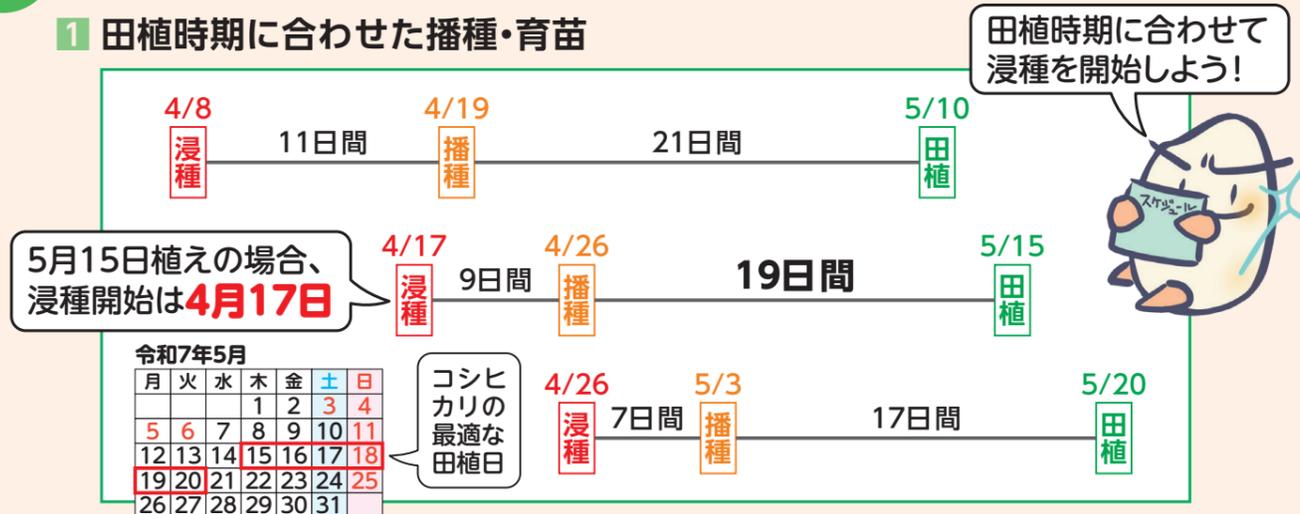


「高品質で美味しい富山米ブランド」確立のための重点技術対策

～ 1等米比率90%以上と安定生産を目指して～

2 適正穂数の確保に向けた適切な育苗・田植作業

1 田植時期に合わせた播種・育苗



- イネばか苗病等の発生防止のため、種子消毒を徹底
- 4月下旬以降はハウス温度が高くなるので、**搬出直後から積極的に換気し**、苗の徒長を防止
- 5月15日の田植えでは、育苗日数19日以内を徹底して、苗の老化を防止

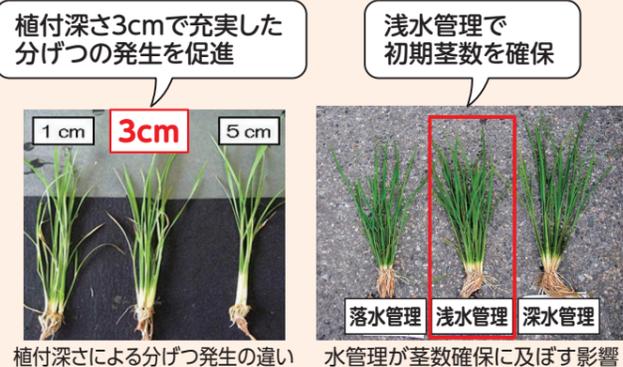
育苗期間中の温度管理の目安

苗のステージ	出芽期	緑化期	硬化期
育苗日数	3日	2～3日	13～15日
温度 昼	30℃	25℃以下	
温度 夜	30℃	10℃以上	



2 適切な田植えと水管理で初期茎数を確保

- **栽植密度70株、植付本数3～4本、植付深さ3cmの徹底**
- 土壤に応じた基肥窒素の施用
- 活着後の浅水管理(水深3cm)
- 田がわいている場合は、中干し前でも軽めの田干しを実施



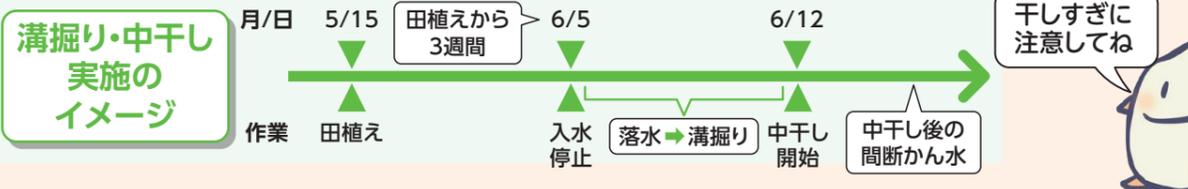
3 溝掘り・中干し等の実施による過剰生育の防止と根の生育促進

1 溝掘り・中干しの徹底

- 6月上旬の**溝掘りの実施**
- **中干しは田植後4週間までに遅れずに開始**



2 中干し後の間断かん水で足跡の深さを3cm程度に誘導



4 こまめな水管理、的確な追加穂肥の施用による稲体活力の維持

1 こまめな水管理

- 幼穂形成期以降は**飽水管理**、出穂後20日間は**湛水管理**
- 刈取り5～7日前までは**間断かん水**



2 的確な追加穂肥施用を!

- **穂揃期の葉色を4.2～4.5(砂壤土は4.5)に誘導**
- 肥効調節型基肥栽培でも、葉色が薄い場合は**追加穂肥を施用**

